

1年1組 (片岡 級) 「めざせ! きらぴか1ねんせい」

【授業の様子】

幼稚園の子どもたちと交流をし、その振り返りをした。幼稚園の子どもたちと仲良くなれたのか等をみんなで話し合い、もっと仲良くなるために次はどのようにするかを考えた。



【講師の先生から】

- 一生懸命に話し合う姿が見られた。
- 子どもたちは、前向きでしっかりゴールを見据えて話し合っていることができていた。
- 「しかけ」につながる発問を意識していくと良い。

1年2組 (飯田 級) 「おはなをそだてて にこにこだいさくせん」

【授業の様子】

子どもたちが育てている植物の様子を観察したり、気付いたことを伝え合ったりする活動を通して、植物の成長に気付き、そのことを喜び、これからも大切に栽培してこうとする意欲を高める一時間になった。



【講師の先生から】

- 種をまく時期がずれないようにしたい。
- 育てる花を決めるときに、花のイメージを持たせることが大切。
- 子ども達にとって、野草も花も区別はないので思いを育てることが大切。

2年1組 (稲葉 級) 「めざせ! スターやさい」

【授業の様子】

野菜の様子を観察しながら、今までの自分の世話を振り返った。子どもたちは野菜の成長と自分の世話を結び付けて考えることができた。野菜が育つためには、世話が必要であることを考えた。



【講師の先生から】

- 野菜の栽培は100%成功はしない。だからこそ生命の終末への関わりを大切にしなければならない。
- 種類による違いにもっと目を向けることが必要。
- 野菜に課題がある児童から、授業に入るとよい。

2年2組 (堀 級) 「めざせ はなまるやさい」

【授業の様子】

「野菜が曲がっているね。」「葉が白いのは病気だよ。」など野菜先生に言われたことに危機感をもち、子どもたちは他の野菜と比べ、世話をすることができた。野菜に寄り添った世話について考える一時間になった。



【講師の先生から】

- 愛着のとらえ方：野菜をよく見つめ、野菜と会話をしたり、絵に表したり、図鑑を見たり、する中で愛着が増したり、愛着がある姿と言える。
- 生産的な視点ではなく、存在的な価値を大切にしていきたい。客観的な見方を高めていく必要がある。
- 子どもたちは、野菜の特徴を見付けながら、愛着を認めていく。

3年1組（川合 級） 「野毛山動物園調さたい」

【授業の様子】

野毛山動物園で自分の担当の動物を調査して見つけたアピールポイントを話し合いました。話し合いを通して、野毛山動物園の動物の魅力に気付いたり、次回の調べ方の視点を広げたりしました。

【講師の先生から】

- アピールポイントを話し合う前段階の「すごいや疑問を集めよう」でもよかった。
- 理由がしっかりと伝えられるとよかった。
- 板書にマークを付けて、3年生なりに整理して話し合えるとレベルアップできる。
- 話している子への頷きや反応がよかった。



3年2組（武藤 級） 「戸部のしあわせっけんでみんなを笑顔に！」

【授業の様子】

給食室からいただいた廃油で作った石鹸を目や耳、手を使って観察したり、汚れが落ちるかを試したりして、石鹸についての情報を集めました。

【講師の先生から】

- 落とす汚れは、マジック以外のものもあるとよかった。油汚れや泥汚れ、上履きの汚れがよく落ちる。
- 子どもが生き活きと授業に参加していて、子どもの魅力が現れていた。
- これから、「この実験」をもとに実験ができるのが、楽しみだ。
- 『しあわせっけん』とは、をこれからみんなで共通理解できると、さらにいい石けん作りができそう。



4年1組（堀内 級） 「みんなでやろう！楽41パラスポーツ」

【授業の様子】

WさんやAさんからポッチャを教えていただいたことから地域の方と一緒にできるか話し合った。話し合いからポッチャには、たくさんの魅力があることに気づき、スポーツ以外のことも発信できるのではないかと考えた。

【講師の先生から】

- この時間で「大変」が「努力している。すごい。」に変化していた。
- ポッチャの魅力・感じたこと→地域の人とできるか。という流れでもよかった。交流の印象は強く残っているので、まず交流について話してもよかったのでは。
- 振り返りを書くことで、自分の考えを整理し、考える時間がとれていた。



4年2組（渡辺 級） 「みんな笑顔 朗読劇団」

【授業の様子】

資料やインタビューから得た情報を話し合い、朗読劇の特徴や魅力を整理し、「朗読劇は声的大事。」と気付いた。そこで、調べてきた資料の中の朗読劇を声に注目して聞き、朗読劇の魅力をさらに感じた。

【講師の先生から】

- 振り返りの時間が確保できていた。
- すでに「やってみたい！」という感想が出ていた。子どもが意欲的に考えている姿が現れていた。
- 声に注目して聞くことで感じた魅力を子どもが伝え合い、黒板に表すことができてもよかった。
- 誰に対して発表するのか決まると、子どもの表現の質が変わるので、これからは楽しみだ。



5年1組（小塚 級） 「いろいろな色の草木染め」

【授業の様子】

子ども達は3回の試作を経て草木染めの手順もコツも理解していた。もっと、量や時間、回数を増やせば効果的なことを理解し、しかも用途や環境に合わせて使い分ければよいことを理解していた。

【講師の先生から】

今までの体験を「次に生かす授業」にしなければならない。そのために必要な「課題」と「後段の展開」がどうであったか、検討が必要。子どもが一つ一つの意見をどのように言っているのか、しっかりと捉え、今後は「どんな風に染めて、どんな風に地域に広めていくのか」を検討してほしい。



5年2組（吉川 級） 「世界の人と戸部のまちでつながろう」

【授業の様子】

初めての交流の後であり、子ども達の「伝えたい」という熱がすごかった。クラス全員がイキイキと話し合っていた。同じ経験をしていて、日本と似ているところと違うところを気付いていた。

【講師の先生から】

本時の前半は「何のために、〇〇をしているのか」を考える時間であり、後半はそこから課題をみつけ体験に「深まり」を付けていけたらよかった。「本当のところはどうなのだろう」と思わせると深まりが出てくるはず。



6年1組（花村 級） 「PHOTOBE BOOK」

【授業の様子】

5種類のフォトブックの分析をきちんとされていたため、「主張」「一枚一枚へのこだわり」「構成」という必要な3つの要素があることを理解していた。また、「主張」が一番大切な要素であることを理解できていた。

【講師の先生から】

前半の授業で分かったことをしっかりとまとめてから後半へつなげていくべき。そのために必要な「学習課題」と「後半の展開」を検討が必要。フォトブックの3要素の優位性を考えて、縦につなぐという意識が必要だった。



6年2組（遠藤 級） 「夢船戸部小学校 139年の歴史の航海へでかけよう」

【授業の様子】

子ども達が楽しそうにイキイキと自分達が見つけた戸部小の好きなところや素敵だと思うところを伝え合う姿が見られた。また、自分達が素敵だと思っているところを昔の人たちも素敵だと思っているに違いないと肯定的な思いをもつことができた。

【講師の先生から】

「伝統」とは昔から繋がっているもの。子どもの視点だと「頑張っているところや良いところ」なので、言葉の定義を明確にし、「ゴールの形」や「課題」を明確にすることが大切。「ゴールの形」については、変化させていくことも必要。



4・5組（大西・幸森・土田 級） 「フラのみりょくをとどけよう」

【授業の様子】

前回T先生から指導を受けた課題をクリアするための練習を通して、自分たちで練習方法を考えたり、友達の困っているところを教え合ったりした。自分たちで練習の計画を立てることができた。

【講師の先生から】

ICTの効果的な使用がされていた。練習方法の取捨選択は必要。子どもがお互いのめあてをわかって「～をしたいから、〇〇の練習をする。」といったかたちを目指せるとよい。

